

国語科 指導方法の課題分析と授業改善策

	ア 指導方法の課題分析	イ 具体的な授業改善策	ウ 補充的・発展的な学習指導計画
第一学年	<p>○小学校段階での言語事項（漢字・語彙・文法等）が定着していない生徒に対する手だてが必要である。</p> <p>○文章を読解することはできるが、それを基に自己の考えを整理して書いたり、話したりすることが苦手な生徒に対する手だてが必要である。</p> <p>○書くことに対して抵抗のある生徒に対する手だてが必要である。</p>	<p>○漢字・語彙に関しては都度チェックし、こまめに指導していく。</p> <p>○どのように考えをまとめるかの筋道をその都度示す。また、グループ学習等を行い、他の人の考えを聞くとともにまとめ方や発表の仕方を学べるようにする。</p> <p>○「何を」「どのように」書くのかという視点をはっきりさせて書くよう指導する。</p>	<p>○適宜状況を把握し、適切な助言を行う。</p> <p>○課題をチェックすることで状況を常に把握し、必要に応じて補充的学習を行う。また、必要に応じて教科書の発展的課題に取り組む。</p> <p>○長期休業中に言語事項に関して、補充的学習の機会を設ける。</p>
第二学年	<p>○読み取ったことを基にして、自分の感想・意見・考えを整理して書くことについても向上しているが、個人差が見られるため習熟の遅い生徒に対する手だてが必要である。</p> <p>○言語事項（漢字・語彙・文法）の学習において基礎的な内容が定着していない生徒に対する手だてが必要である。</p>	<p>○「何を」「どのように」書くのかという視点をはっきり示して指導する。また、構成の例などを示し指導する。</p> <p>○漢字・語彙に関しては適宜指導を行い、家庭学習の方法内容なども提示する。</p>	<p>○課題をチェックすることで状況を常に把握し、必要に応じて補充的学習を行う。また、必要に応じて教科書の発展的課題に取り組む。</p> <p>○長期休業中に言語事項に関して、補充的学習の機会を設ける。</p>
第三学年	<p>○言語事項（漢字・語彙・文法）の知識が定着していない生徒に対する手だてが必要である。</p> <p>○書くことにおける構成の力に個人差が見られるため個に応じた指導が必要である。</p> <p>○文章を読解する中で、登場人物の言動の意味を理解する力に個人差が見られるため、重点化した指導が必要である。</p>	<p>○漢字や慣用的な表現について、演習を重ね、自分の言葉として使用できるように指導する。</p> <p>○構成の仕方に苦手意識のある生徒に対して例を示し、書き方を分かりやすく指導する。</p> <p>○登場人物の言動から読み取れる心情について物語文の授業の中で重点的に指導する。</p>	<p>○知識の定着が不十分な生徒に対して小テストをくり返し行う。</p> <p>○レポートや作文の構成を生徒同士で交流し、よりよい構成を組み立ててから書くように助言・指導していく。</p> <p>○生徒自身の生活体験の中に類似した場面があれば重ねて考えさせ、なければ教師の体験を語ったり、登場人物の心情を想像させることで読解の力を育む。</p>